「自由を得させるために」　2020年08月26日

きょうだいたち、あなたがたはイサクと同じように約束の子どもです。しかし、当時、肉によって生まれた者が霊によって生まれた者を迫害したように、今も状況は同じです。（ガラテヤ書4章28節～29節）

この自由を得させるために、キリストは私たちを解放してくださいました。ですから、しっかりと立って、二度と奴隷の軛につながれてはなりません。（ガラテヤ書5章1節）

神はアブラハムの身から出る子孫に祝福を与えると約束したが、アブラハムと妻サラの間には、子どもがなかなか生まれなかった。サラは女奴隷ハガルをアブラハムに与え、イシュマエルを生ませ、自分の子どもにしようとした。その後、神の約束通り、サラにイサクが生まれ、アブラハムは二人の子どもを得た。パウロは、二人の女は二つの契約を表していると言う。ハガルは律法を受けたシナイ山で、律法に生きているエルサレムに当たり、エルサレムは子孫共々律法の奴隷である。ハガルとイシュマエルはアブラハム一家から追放されている。一方、サラは天のエルサレムで、神に約束された自由な身の女であり、私たちの母である。パウロは、ハガルを「奴隷」、サラを「自由」と捉え、アブラハム、イサクの子孫である私たちは約束の自由を得ると言う。こんな評価ができるのであろうか。パウロは、神の言葉の確かさに基づいて、サラの子孫に自由が継承されたと主張している。

パウロは更に、イシュマエルがイサクを迫害していると捉えている。その時のことを、創世記21章8節～10節で、「イサクが乳離れした時、盛大な祝いの席を設けた。エジプトの女ハガルはアブラハムに子を産んでいたが、サラは、その子が遊び戯れて（からかって）いるのを見て、アブラハムに言った。『この女奴隷とその子を追い出してください。この女奴隷の子が、私の子と並んで跡を継ぐことはありません』」と書いている。パウロは、「遊び戯れる（からかう）」を「迫害」と受け取り、「きょうだいたち、あなたがたはイサクと同じように約束の子どもです。しかし、当時、肉によって生まれた者が霊によって生まれた者を迫害したように、今も状況は同じです」と、肉によって生まれたイシュマエルが霊によって生まれたイサクを迫害したように、今も、律法の奴隷である肉のユダヤ人は、自由の身である霊のキリスト者たちを迫害していると重ね合わせている。そして、サラの言葉、「女奴隷とその子を追い出せ。女奴隷の子は、断じて自由な身の女の子と一緒に相続してはならない」をそのまま受け継いでいる。パウロは、「それゆえ、きょうだいたち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由な身の女の子どもなのです」と、神が約束した自由に与っている祝福を、サラから継承していると結論づけている。この記述は、今日の人権論から見れば、正当性はないだろう。ハガル、イシュマエルは言われなき被害者で、アブラハム、サラは横暴な加害者ではないか。神の約束の言葉の絶対性を信じるパウロはハガルとサラから、「奴隷」と「自由」を対極的に論じている。

そしてパウロは、「この自由を得させるために、キリストは私たちを解放してくださいました。ですから、しっかりと立って、二度と奴隷の軛につながれてはなりません」と、キリストの真実が私たちを自由へと解放してくださったと語っている。だから、自由を得させてくださったキリストの十字架と復活にしっかり立脚し、二度と、律法の奴隷の軛につながれてはならない。神の自由への約束はキリストにおいて、確かに実現している。パウロは、この自由を得ていると、旧約の故事から論述したのである。